



只野（石倉）美萌菜

札幌生まれ、2017年宮城県塩釜市へ移住。
「感情・考えのゆれ動き」「悩みの過程」をまるごとモチーフにしたり。また日々の生活で些細だけれどどこか引っかかる感情を糸口に、その糸を手繰り寄せ、さらにその先の感情・環境・出来事を引きずりだすように制作しています。



白鳥大樹（荒物屋 / 建築ダウンナーズ）

1992年、仙台市生まれ、2018年東北大学大学院都市建築学専攻修了。仙台高等専門学校非常勤講師。在学時、NPO 法人芸術公社へのインターンや、映画と建築に関する論文の執筆、劇団かもめマシンの美術レイアウトなどを行い、建築と他分野を横断して活動。現在は、建築学を基に、日常的に身の回りにある素材・建材を用いて、建築空間の設計活動を行っている。また、立体物のみならず、映像作品などの制作も行う。



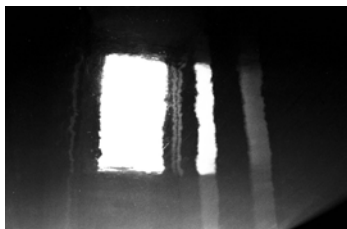
高村拓弥

1999年岩手県盛岡市生まれ。仙台市在住で東北芸術工科大学の歴史遺産学科に所属。ゼミは民俗学、人類学を専攻。ある集団で形成される「文化」や「伝統」に関心があり、社会を形成しているものを探すために、より多くのフィールドに足を踏み入れて、相対的な視点で物事を見る事を心がけている。



南城拓哉

宮城県岩沼市出身。
恐竜や宇宙等の科学を題材にして、人間の可能性をテーマに作品を制作。
過去を紐解き未来を創造する人間の叡智、勇気から現代社会の行方を探る。
個展「MUCHU」(2019年、art space 定禅寺ギャラリー、仙台) 他グループ展多数参加。



二宮雄大

記憶の書き換えによって生じる他者との軌轢、幻想や夢を題材とした写真作品に取り組む。
個展 Retina(仙台写真月間 2018,SARP,仙台)、RAIEC TOKYO2019(TIP,東京)などのグループ展で作品発表を行っている。そのほか NEW JAPAN PHOTO 10(EINSTEIN STUDIO,2020) 掲載、TOKYO PHOTOBOOK REVIEW(東京,2020) 参加などがある。



廣瀬さやか

1982年宮城県生まれ。
人を自然物と捉え「ただそこに在る」という存在承認をテーマに様々なメディウムで制作に取り組む。
2019年TURNAROUNDにて個展「誤解の虚像と天使のはしご」開催。



深谷桃子

埼玉県富士見市生まれ。仙台在住の大学生。社会学寄りの分野を勉強中。小さい頃はものを作るのがあれほど好きだったのに、最近出来てないではないか、と思いcreekに入塾。出来てないのは、頭の中でもややさせただけで、手を動かさないからだ、ということがようやく分かりました。



MIO

仙台市在住。会社員。
無心に創作する子供たちをみて子育ての傍らアートにかかわりたいと考えCreekに参加。自らを表現し、開放できる手段として芸術とこどもや社会を繋げればと考えている。



吉田 愛美

1994年宮城県出身。2017年東北芸術工科大学彫刻コース卒業。人体像を制作している。
2016年いりやKOUBO 準大賞受賞
2018年個展 @ アートスペース羅針盤 (東京)
2019年個展「私がいなくなるとき」@Gallery TURNAROUND (宮城)
同年 個展「灯し火」@ アートスペース羅針盤 (東京)